

基礎医学演習

責任者・コーディネーター	衛生学公衆衛生学講座 坂田 清美 教授		
担当講座・学科（分野）	人体発生学分野、統合生理学分野、細胞生物学分野、化学科		
担当教員	古山 和道 教授、中岡 克己 教授、齋野 朝幸 教授、木村 眞吾 准教授、鈴木 喜郎 准教授、東尾 浩典 講師、三上 貴浩 助教		
対象学年	2	区分・時間数	講義 0コマ 0.0時間
期間	後期		演習 16コマ 24.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

適切な診断・治療の実践には、個々の患者の病態生理に関する十分な理解が必要である。そのためには広範な基礎医学・生命科学の知識とこれらを統合する能力が要求される。本演習では、1学年および2学年前期で学んだ基礎医学・生命科学の知識を個々の理解度（習熟度）に応じた学習方略で整理し、これらの知識が臨床医学の現場でどのように役立つのか演習形式で学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

1学年及び2学年前期で学んだ、解剖学・生理学・生化学等の各教科で学んできた知識を演習を通して横断的に整理し、医療を実践する上で必要な重要知識について説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 4 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	演習問題の作問意図を指摘できる。
2	演習問題の関連知識を説明できる。
3	正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・講義場所

講義：東1-B講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
演習	9/1(火)	2	分子医化学分野	久保田 美子 准教授	医化学Ⅰ 生化学の領域における基本的な知識を確認するための、CBT方式の設問を用いた演習	1,2,3
演習	9/1(火)	3	分子医化学分野	古山 和道 教授	医化学Ⅱ 生化学・分子生物学の領域における基本的な知識を確認するための、CBT方式の設問を用いた演習	1,2,3
演習	9/1(火)	4	分子医化学分野	古山 和道 教授	細胞生物学Ⅱ 細胞の機能、特に分子生物学的な領域に関連するCBT方式の設問を用いた演習	1,2,3
演習	9/2(水)	3	人体発生学分野	三上 貴浩 助教	骨学 骨学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	9/2(水)	4	人体発生学分野	三上 貴浩 助教	発生学 発生学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	9/4(金)	2	統合生理学分野	中隴 克己 教授	器官生理学 腎・体液生理学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	9/16(水)	1	統合生理学分野	中隴 克己 教授	器官生理学 循環器生理学、消化器生理学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	11/26(木)	2	統合生理学分野	木村 眞吾 准教授	神経生理学 感覚、運動、自律系、本能行動、高次神経機能に関連するCBT形式の問題演習	1,2,3
演習	12/3(木)	1	統合生理学分野	木村 眞吾 准教授	医科生理学 興奮性細胞の性質、シナプス機能、筋収縮に関連するCBT形式の問題演習	1,2,3
演習	12/3(木)	2	統合生理学分野	鈴木 喜郎 准教授	医科生理学 細胞生理学、血液生理学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	12/10(木)	1	統合生理学分野	鈴木 喜郎 准教授	器官生理学 呼吸生理学、内分泌生理学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	12/10(木)	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	基礎組織学 組織学総論に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	12/11(金)	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	器官解剖学 組織学の各論に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	12/11(金)	4	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	神経解剖学 神経解剖学に関するCBT類似の問題演習	1,2,3
演習	12/15(火)	2	化学科	東尾 浩典 講師	細胞生物学Ⅰ 細胞の形態・機能に関連するCBT方式の設問を用いた演習	1,2,3
演習	1/7(木)	2	化学科	東尾 浩典 講師	細胞生物学Ⅰ 細胞の形態・機能に関連するCBT方式の設問を用いた演習	1,2,3

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準組織学 各論 第4版	藤田恒夫、藤田尚男 著	医学書院	2010
教科書	解剖学講義（改訂第3版）	伊藤 隆	南山堂	2012
教科書	ラングマン人体発生学 第10版	T. W. Sadler著、安田峯生 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2010
教科書	人体の正常構造と機能 縮刷版	坂井建雄、河原克雅	日本医事新報社	2008
教科書	シンプル微生物学改訂第5版	東匡伸、小熊恵二、堀田博	南江堂	2014

・成績評価方法

総括評価：試験成績により評価する。

形成的評価：講義の最初に実施する択一式の演習問題の回答結果を用い、誤答が多い選択肢を重点的に解説し、学生にフィードバックを行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC画面投影装置	2	問題演習・解説
講義	ノートパソコン	2	問題演習・解説
実習	クリッカー	130	問題演習